

Autodesk社は、Denodoデータ仮想化を活用して収益モデルの転換に成功。



www.autodesk.com

業界

情報サービスソフトウェア

プロフィール

Autodesk社は、3Dデザイン、エンジニアリング、エンターテインメントソフトウェア業界をリードする企業です。1982年にAutoCADソフトウェアを導入して以来、Autodesk社は、グローバル市場用に広範な3Dソフトウェアのポートフォリオの開発を継続しています。製造、アーキテクチャ、ビルディング、建設、およびメディアとエンターテインメント業界の顧客は、アイデアを実際に具現化または創造する前に、Autodesk社のソフトウェアを使い、そうしたアイデアの設計、可視化、シミュレートを行います。

「Denodoデータ仮想化により、従来の永続ライセンスから今のニーズにあったサブスクリプションベースのライセンスへと当社ビジネスの近代化を実現できました。したがって、当社組織のアジリティ、業績、利益率を改善する一方で、ビジネスとITのコラボレーションを強化しています。」

Mark Eaton
エンタープライズアーキテクト
Autodesk

Autodesk社は盛況な市場にクリエイティブなソフトウェアアプリケーションを提供することで事業に成功しています。ソフトウェアが消費されるパターンの変化を考慮し、同社は従来の永続ライセンスによる収益モデルから今のニーズにあったサブスクリプションベースのライセンスモデルに転換し、利益増と成長を実現しようと決断しました。

業務上のニーズ

Autodesk社の既存ビジネスインテリジェンス(BI)システムは、この重要な収益モデルの転換をサポートできませんでした。転換により、財務部門はサブスクリプション、更新、支払い、BIシステムを追跡する能力に影響を受けました。これには業務で利用するデータウェアハウスが含まれており、高品質かつ鮮度の高いデータをますます必要とするビジネスの利害関係者の需要を満たすことができませんでした。

Autodesk社は、アジャイルBI2.0アーキテクチャへの進化には論理データウェアハウスを中核とした変更が必要だと速やかに決定しました。特に、これは既存の物理モデルからデータ統合に向けてより論理的アプローチへの移行が含まれることとなります。この決定に続いて、データ仮想化にDenodoプラットフォームを使用する論理データウェアハウスを実装し、この転換に対応しました。

ソリューション: 論理データウェアハウス

Autodesk社では、OLTP、フラットファイル、地理空間データ、ソーシャルメディアからのストリーミングデータおよびウェブログを含む複数の異種データソースからデータを取り込んでいました。従来の統合システムには、リレーショナルデータベースからのデータのバッチ処理用のETLおよびストリーミングデータを統合するKafka(CSE)があります。また、Autodesk社は、SparkやScalaなどの複数ビッグデータソースからデータを格納するエンタープライズデータレイクを持ち、一方で、OLTPや地理空間データはETLされ、オペレーショナルデータウェアハウスに格納されました。インフラは遅く、非効率的であり、業務情報や新ライセンスモデルへの転換に適合する必要のあるアジリティに対する需要に対応できませんでした。

Denodoのデータ仮想化プラットフォームは、まずAutodesk社の財務部門に導入されました。ここでは、サブスクリプション、更新および支払いの追跡に使用しています。データ仮想化により、ビジネスユーザーはデータに触ることも、あるいは加工することもなく、当該ユーザーからの財務データの抽象化に役立ちました。さらに、Autodesk社は企業に属する機密データすべてを保護するニーズに気付きました。Autodesk社では機密データ取り扱い管理の向上の他にリスク軽減を促進するよう設計された、さまざまなガバナンス、リスク、コンプライアンス(GRC)イニシアチブが現在存在しています。また、サーベンス、オクスリー法(SOX)のコンプライアンスにより、Autodesk社内イニシアチブの多くがコントロールされています。Denodoプラットフォームは、同じイニシアチブと、他のプライバシー法に対応する他それぞれのコンプライアンスイニシアチブの管理を可能にします。

論理データウェアハウスとしてDenodoプラットフォームを使用し、Autodesk社は、社内で使用される一切のデータについて、単独の一元化された企業アクセスポイントを作成しました(図1)。

利点

Autodesk社は、データ仮想化のためのDeodoプラットフォームを活用して収益モデルの転換に成功しました。Denodo導入による大きなビジネスメリットには、永続のライセンスベースのモデルからより今のニーズにあったサブスクリプションベースのモデルへの近代化を遂げる転換が関わっています。この転換により、Autodesk社の事業業績は組織横断的に改善し、ビジネスとIT間で情報をタイムリーに共有してコラボレーションを強化するとともに、あらゆるレベルでビジネスを近代化してアジリティ、業績および収益性の拡大を実現しました。さらに、データ仮想化ソリューションによりAutodesk社の外部パートナーがwebサービスを利用するAutodesk社のSAPECCアプリケーションに直接つながるようになりました。この機能により、ほぼリアルタイムの支払処理が可能になります。

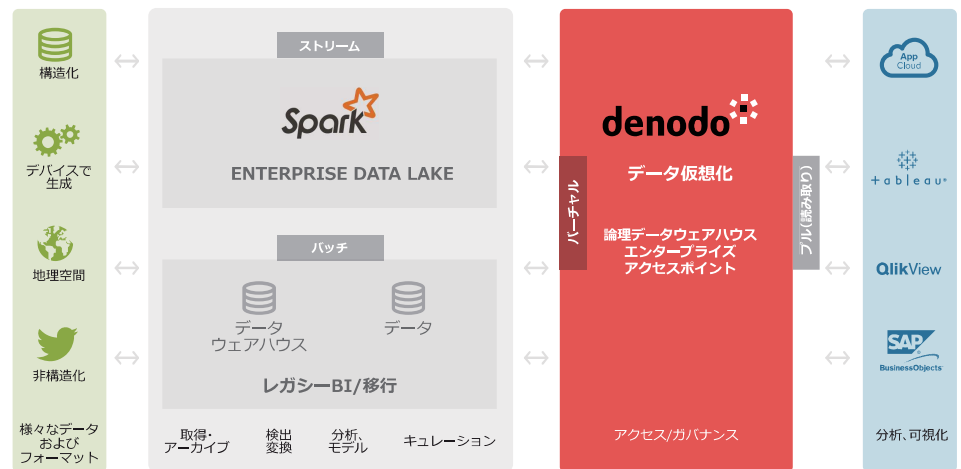


図1: 論理データウェアハウスとしてのDenodoプラットフォーム

Autodesk社は、もうデータの移動をする必要がなくなりました—以前ほど頻繁にETL(抽出、変換、ロード)を行わずとも良くなったのです。つまり、データコピーの手間が省かれたということです。また、Autodesk社はこれまでで初めて、セキュリティの一元的な実施が可能になり、データアクセスの統一環境を整えることができました。

Denodoソリューションでは、開発チームにフレキシビリティを与え、実際に構築する前に何を構築する必要があるかを把握できるようにします。開発チームが計画を前もって策定することができ、開始以前にビジネスチームが商品に何が必要かを予想することができます。このアプローチは、アジリティを提供し、データ仮想化を企業にとって魅力的なものとししました。

データ仮想化のソリューションは、Autodesk社のビジネスおよび開発チームのコラボレーションも促進しました。

Denodoについて

Denodoはデータ仮想化分野のリーダー企業として、企業、クラウド、ビッグデータ、非構造化データなどの幅広いデータソースを対象に、アジャイルで高パフォーマンスのデータ統合機能およびデータ抽象化機能を、リアルタイムデータサービスとして、従来の手法の半分のコストで提供しています。Denodoの顧客は様々な主要産業にわたり、ビジネスできわめて迅速な対応ができるようになり、非常に高いROIを実現しており、アジャイルBI、ビッグデータの解析、ウェブとクラウドの統合、単一ビューアプリケーション、および企業データサービスに必要な統一されたビジネス情報への迅速かつ容易なアクセスを可能にしております。Denodoは潤沢なファンド資金に支えられた収益力に優れた株式非公開企業です

www.denodo.comをご覧ください。 Email: info@denodo.com (日本) info.apac@denodo.com Twitter: @denodo
 北アメリカおよびアジア太平洋(+1)877 556 2531 日本、東京(+81) 03 6841 4229 欧州・中東・アフリカ(+44)(0)20 7869 8053
 ドイツ・オーストリア・スイス(+49)(0)89 203 006 441 イベリアおよびラテンアメリカ(+34)912 77 58 55